

東小だより



大村市立東大村小学校
令和4年 7月 5日
文責；校長 一丸正志

夏、真っ盛りです。熱戦が繰り広げられました!

例年にない梅雨明けの早さに、些か驚いています。梅雨が明けたと思ったら、猛暑となり、季節の変化の早さに体がついていかない状況です。

学校では、3年ぶりに「わんぱく相撲」が催されました。6月19日に「わんぱく相撲 大村市予選会」が、7月3日に「わんぱく相撲 県大会」が東大村小の土俵で開催されました。

令和3年の春に土俵が改築され、ついにお披露目することができました。関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

土俵上では、猛暑にも負けず劣らずの熱戦が繰り広げられました。しっかりと立ち会いを行い、がっぷりと組み合っただけの熱戦に、観客からは温かい声援や拍手が送られました。本校からは、6年生3人、5年生2人、4年生2人が出場しました。必死に手を着くまいと顔から地面に落ちたり、組み合ったまま倒れ込んだりと、勝負への執念が感じられました。そして、負けた時には悔しさをにじませ、涙を見せる姿が印象的でした。

結果は、6年生の大石爽太さんが大関（準優勝） 4年生の松谷圭織さんが横綱（優勝）と健闘しました。

【県大会にて】



【大村市予選会にて】



命について考えました。「如己愛人」

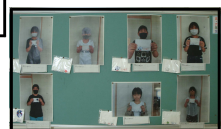
今年も、6月24日（金）～7月1日（金）まで、「東っ子の心を見つめる教育週間」が催されました。19年前の長崎市の少年による事件、そして、翌年の佐世保市での事件は、社会に衝撃を与えました。また、子どもたちの心の有り様を、周囲の大人が改めて見つめ直す大切さを痛感しました。

本校でも、道徳の授業を通して、命の大切さを考えました。保護者の皆様にも多数参観していただき、誠にありがとうございました。全校朝会の校長の話では、命について永井博士の生涯にふれながら ①平等に与えられたもの ②多種多様にあるもの ③次につなぐもの ④かけがえのないもの として話をしました。



コロナ禍の作品集です。

コロナ禍にあって、子どもたちは向き合って話し合い活動ができなかったり、調理実習ができなかったりと様々な制約を受けています。そんな状況の中で、民生委員さんからいただいたマスクを利用して、家庭科の裁縫の実習を行いました。それぞれに、ワンポイントの刺繍やアップリケを入れて、素敵なマスクが出来上がりました。これは、下山太一さんのマスクです。牛のデザインがかわいいですね。



星に願いを!

7月7日は七夕です。玄関には、笹の葉に子どもたちの願い事が飾られています。「足が速くなりますように!」とか「字が上手に書けますように」など、子どもらしい願い事が書かれています。中には、「100億円落ちてきますように」と欲張りな願い事もあります!?

